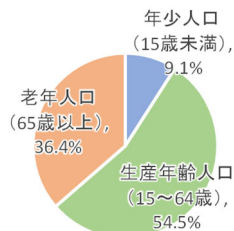


和田 (わだ)

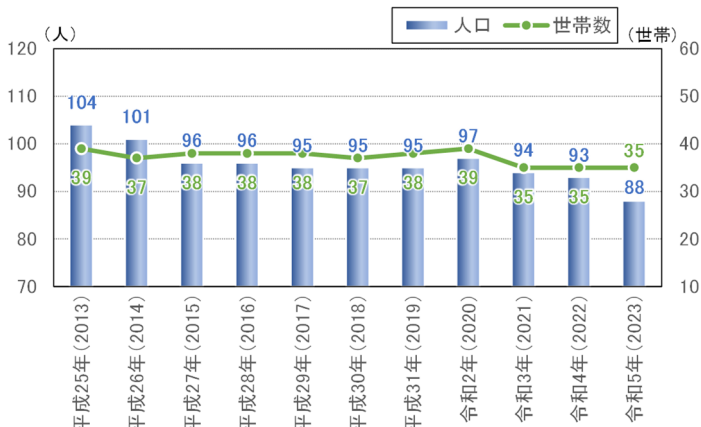
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	88人
世帯数	35世帯
高齢化率	36.4%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の三方を山に囲まれた農村で、谷が深く、南側に田畑が開けている。集落の中を和田川に注ぐ下住川が西流し、西側を県道赤崎久谷停車場線が走り、南方で国道178号と結ぶ。

地名由来 「和田」の語源は、「わた・わだ(曲)」で、谷から入って曲がったところという地名から来ていると考えられる(『たじま地名考』日本海新聞)。

歴史等 往古、村の中心部に寺があったと伝え、付近の山を寺尾、畑を寺屋敷、その一段下を小寺という。字一升口の石窟は、平家の落人が御崎(香美町)から来て隠れ場所にしたと言われている。

もとは赤崎村と合わせて細見村と称し、寛永4年(1627)までに分村したという。

近世の和田村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、^{けいちろう} 旗本宮城氏 ^{はたもとみやぎ} 知行、^{ちぎょう} 正保元年(1645)幕府領、^{かんぶん} 寛文8年(1668)豊岡藩領、^{きょうほう} 享保12年(1727)からは幕府領となった。家数は、^{ほうれき} 宝暦10年(1760)49、^{かんせい} 寛政12年(1800)49、^{かい} 寛永元年(1848)46、^{あんせい} 安政5年(1858)42。天保5年(1834)の『^{たじまのくに} 但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は107石余。

明治22年(1889)東浜村の大字となり、明治24年(1891)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数24、人口は男155・女155。

これまで把握している文化財

文化財の件数 19件 (うち指定等文化財 1件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	1	0
		石造物	0	0
		工作物・その他の構造物	2	0
	美術工芸品	彫刻	1	0
		絵画	1	0
		工芸品	0	0
		書跡・典籍	0	0
無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	0	0	
	音楽	0	0	
	演劇	0	0	
	工芸技術	0	0	
	その他の無形文化財	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	3	0
		祭具	0	0
		民具	0	0
	無形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	0	0
		年中行事・民俗芸能	2	1
		民俗技術	0	0
		食文化	0	0
記念物	遺跡	民間説話・俗信	0	0
		その他の無形の民俗文化財	0	0
		散布地・集落跡・生産遺跡	0	0
		古墳・その他の墓	2	0
		城館跡・寺社跡	1	0
	名勝地	街道・古道等	2	0
		戦争遺跡	0	0
		その他の遺跡	2	0
	動物・植物・地質鉱物	山岳・高原・丘陵	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0	0
河川・滝・渓谷・湖沼		1	0	
公園・庭園		0	0	
文化的景観	動物	0	0	
	植物	1	0	
伝統的建造物群	地質鉱物	0	0	
	生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
宿場町・城下町・農漁村等			0	0



和田八柱神社



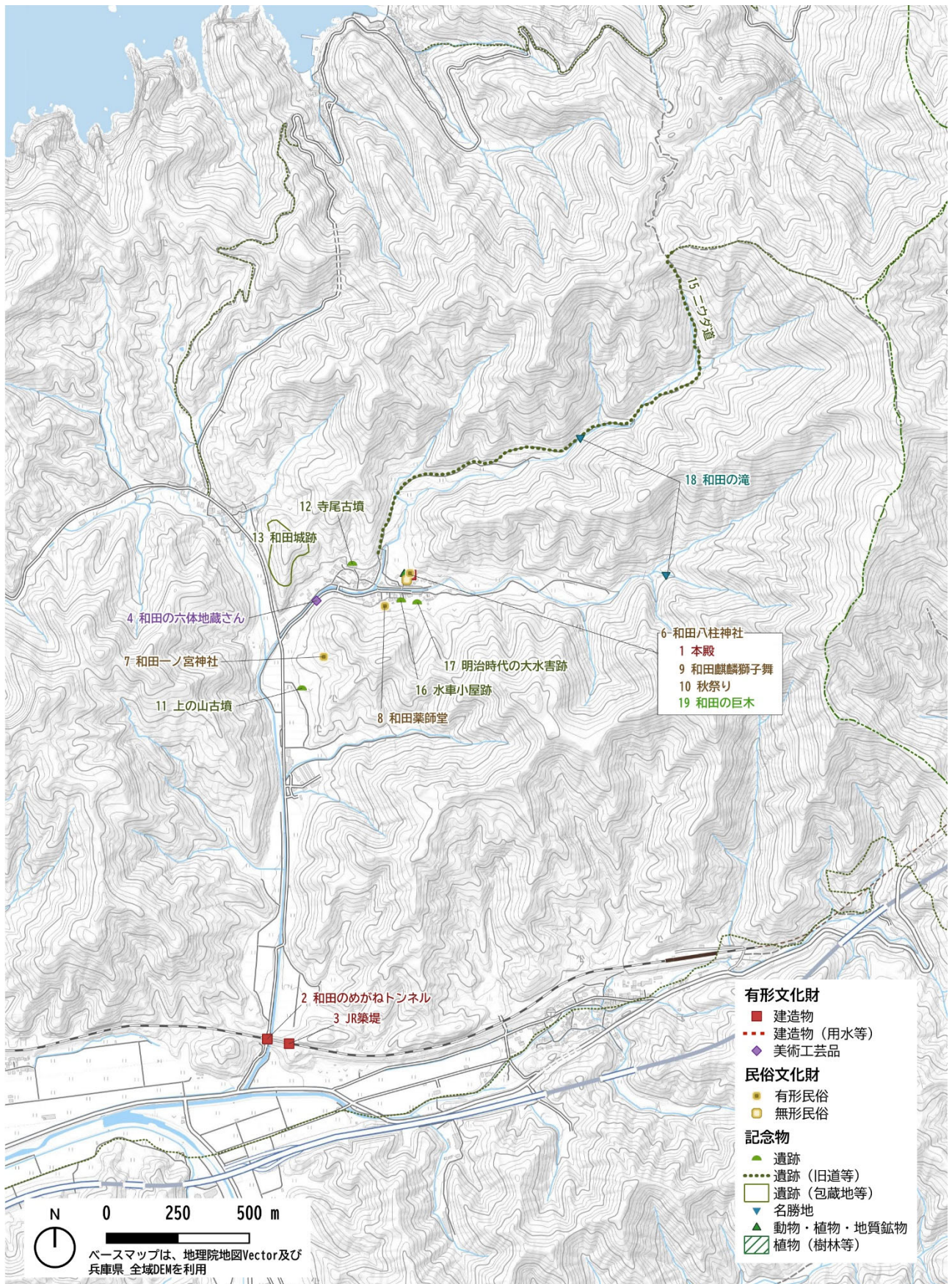
和田のめがねトンネル



和田麒麟獅子舞

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

1-07 和田

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	和田八柱神社本殿	欄間には龍、木鼻には獅子、唐破風懸魚（兎毛通）には鳳凰などの彫刻がみられ、丹波柏原の彫物師中井権次の作である。上段虹梁の上には獅子嚙が彫られ、その眼が鮮やかに残る。
工作物・ その他の 構造物	2	和田のめがねトンネル	JR の築堤は、地域住民の生活域を分断してしまうため、解消策として数多くの隧道が造られた。その一つが和田のめがねトンネルで、東側を和田川、西側を県道が通る。
	3	JR 築堤	明治 44 年（1911）頃に築造された築堤。当時の日本の技術では長いトンネルを掘ることは不可能だったため、山陰本線では、トンネルの長さを最短に抑え、急勾配にしないため、海拔の低い地域では堤を築いて、その上に線路が敷設された。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	4	和田の六体地藏さん	集落墓地の麓に位置する。四角い石に六体の地藏が浮彫されている。
絵画	5	和田八柱神社の絵馬	八柱神社覆屋内に奉納されている江戸後期頃の武者絵馬。約 60cm×90cm、1 枚。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	6	和田八柱神社	祭神は神速須佐鳴命。大永年間（1521～1528）に山城国八坂神社より分霊を勧請すると伝える。明治 6 年（1873）10 月に村社に列せられる。境内社に稲荷神社（保食神）がある。
	7	和田一ノ宮神社	近代社格は無格社。和田字ウエノヤマにあった神社で、現在は和田八柱神社に合祀されている。久斗庄と二方庄の境にあたり、かつては 8 月 24 日（7 月 24 日）郷土相撲が盛んに行われていた。現在も社殿跡の平地が残っている。
	8	和田薬師堂	岸本修家裏手にある薬師堂には江戸時代後期頃の高さ約 180cm の木製立像、十二神将像二体が安置されている。本尊薬師如来像は無い。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	9	和田麒麟獅子舞	10 月 3 日の和田三柱神社例祭で奉納される。片付けねり、片付けの舞がある。和田麒麟獅子舞保存会により伝承されている。 国指定重要無形民俗文化財（「因幡・但馬の麒麟獅子舞」として）
	10	和田八柱神社秋祭り	10 月 3 日に八柱神社で行われる。麒麟獅子舞が奉納される。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	11	上の山古墳	古墳時代の古墳。円墳、径 10m。圃場整備中に横穴式石室を検出し、須恵器片が多数出土。半分ほど残る。石室の一部と思われる石が多数散乱している。
	12	寺尾古墳	古墳時代の古墳。横穴式石室（1×1m）の一部が露出。

分類	番号	名称	概要
城館跡 ・ 寺社跡	13	和田城跡	中世の城館跡。堀切・郭が残る。城は段差の低い小規模曲輪を階段状に配置した単純な縄張りで、築城起源は南北朝期に遡るとされる。戦国末期頃に堀切・塹堀や畝状塹堀によって補強・改修されている。城主は不明であるが、縄張りから考えると和田集落の地侍クラスの城郭で、「村の城」であったと考えられる。
街道・古道等	14	牛の道	御崎（香美町）から続く牛の道。昭和 30 年代まで山越えの道で和田を通過して牛の市に行っていた。
	15	ニウダ道	大三尾の南西側を山越えして和田村に通じる道。古くからの道であるが、他の村との往来に利用する主要道としての役目はなく、間道としての役割を果たしていたものと思われる。昭和初期頃までは「駈落ち道」の異名が残っており、その昔恋愛した若い者同士が親の反対で結婚できないとき、この道を駈落ちして村を出て行った道と伝わる。
その他の遺跡	16	水車小屋跡	昭和 40 年代まで和田川の水を利用して製粉・精米をしていた水車小屋跡。現在、畑と墓地に挟まれた水路がある。
	17	明治時代の大水害跡	明治 26 年（1893）10 月豪雨により和田川が氾濫し、和田村 64 戸のすべてが水害の被害を受け、数百か所の山崩れの被害を出た。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
河川・滝・ 溪谷・湖沼	18	和田の滝	およそ高さ 15mの滝と高さ 20mの滝がある。浜坂地域のなかでは数少ない滝である。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	19	和田の巨木	樹齢約 400 年。八柱神社脇にある幹回り 5.6mのスダジイ。地上高 6mのところまで樹高調節（伐採）されている。